

被災地へ“元気袋”を届けよう

突粟市老人クラブ女性部



を作り、その袋に新しいタオル、歯ブラシ、ひげそり、石鹸、筆記用具、メモ用紙、爪切り、ハサミなどの生活必需品と贈り主の激励メッセージを詰めて被災

突粟市老人クラブ連合会女性部では、東日本大震災で被災された方々に「元気袋」を届けようと現在準備を進めています。
これは、兵庫県老人クラブ連合会が避難所、仮設住宅、在宅被災者など、今もなお不便な生活をされている方々が元気を取り戻す一助として「高齢者のまごころ」を届けよう!と呼び掛けられたものです。
女性会員を中心に手作りの袋



集まった生活必需品は段ボール箱約40個。種類ごとに仕分けします

災者に届けます。
4月22日(金)、山崎地区老人クラブ女性部が防災センターで元気袋の仕分け作業を行いました。
女性部長の藤田玉恵さんは、「被災者の皆さんに、微力ながら元気を届けたい。」と思いを語られました。
遠く離れた突粟市から「まごころを届ける」復興支援の輪が、さらに広がることを願っています。
(山崎支部 春名章宏)

「子どもは地域の宝」

「子どもは地域の宝」
神福寺でお稚児さん行列



高野山の正統派ゆるキャラ「こうやくん」が登場!



結婚して遠方に住んでいる息子や娘さんの子どもたちもたくさん参加していました

4月24日(日)、一宮町伊和の神福寺で七年に一度の法会(宗祖弘法大師御影供法要)があり、その法会の一環として『稚児行列』が行われました。
「稚児に扮したお子様は、仏様のご加護が得られ、健全に賢く育つ」と言われ、0歳から10歳の檀家や地域の子どもたち132人が参加。
冠や烏帽子などで華やかに着飾った稚児たちは、伊和ふ



宗派に関係なくみんな仲良く練り歩きお寺に到着。境内はお稚児さんで大賑わい(本堂前)

れあい館を出発し、保護者や家族が連れ添って神福寺までゆつくり20分練り歩きました。お寺に到着し、お清めや記念撮影を行い、華やかな稚児行列は無事に終わりました。
子どもは地域の宝です。次はまた7年後ですが、子どもたちの健やかな成長を願う稚児行列を一度は体験されてもよいかと思えます。
(本部・一宮支部 波多野好則)